

プランジャー測定対象エレベーターの技術情報

(巻上機ブレーキ)

(Rev. 1.0)

2017年法改正対応版

Index

1. 要改善ブレーキが使用されている旨を判断するための情報	1
1.1 要改善ブレーキ使用エレベーターであることを判別するための型式と見分け方	
1.2 要改善ブレーキが改善済みまたは未改善であることを見分ける方法	
2. プランジャーストロークの測定方法	3
2.1 プランジャー余裕ストローク測定手順	
3. 要改善ブレーキの改善処置の内容	4
4. 本件についての外部からの問合せ窓口、連絡先	4

1. 要改善ブレーキが使用されている旨を判別するための情報

1.1 要改善ブレーキ使用エレベーターであることを判別するための型式と見分け方

① 巻上機型式

巻上機型式	ギアタイプ	巻上機型式	ギアタイプ
TML-M2000	ギアレス	BW275	ウォーム
TML-M1350	ギアレス	BW1638	ウォーム
TML-N2A(BH110)	ヘリカル	BW320F	ウォーム
TML-N2B(BH110)	ヘリカル	BW395L	ウォーム
TML-H2A(HCC355)	ヘルカル	HS180K	ウォーム
TML-H2B(HCC355)	ヘルカル	HS250K	ウォーム
TML-N1A(BH055)	ヘリカル	HS375K	ウォーム
TML-N1B(BH055)	ヘリカル		
SHR-2000A	ヘリカル		
SHR-4000A	ヘリカル		

② 要改善ブレーキの見分け方

下図のようにブレーキスプリングがブレーキドラムに対して上部にあり、プランジャーが外側にブレーキアームを押し開く構造の戸開走行保护装置(UCMP)が未設置の巻上機が対象となります。

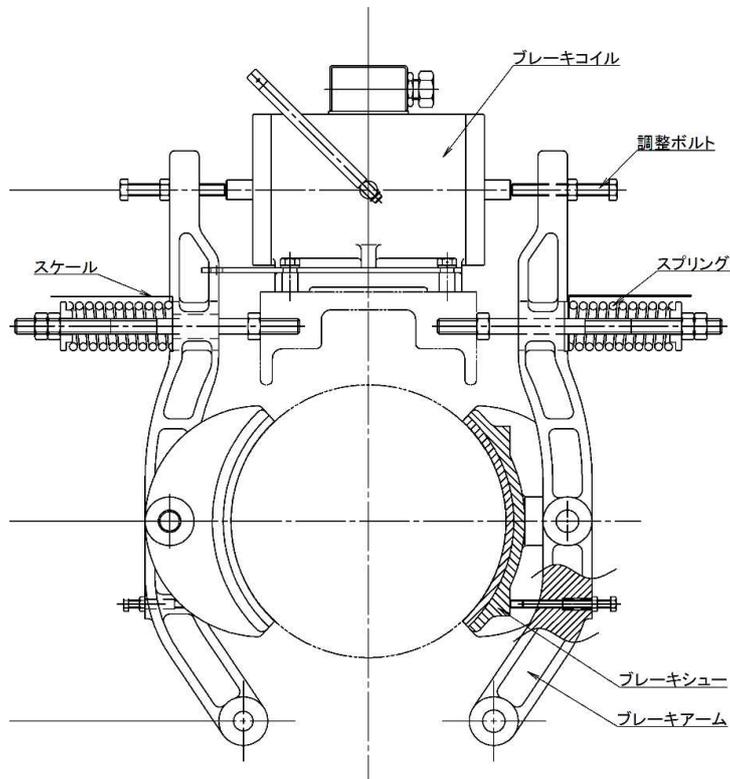
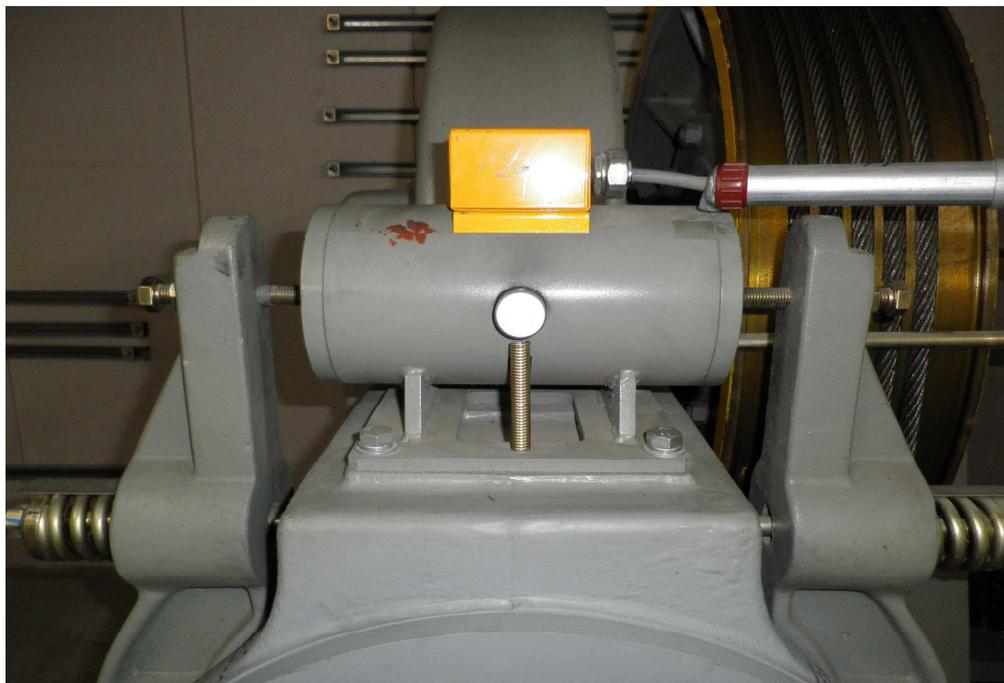


図1 要改善ブレーキ概略図

1.2 要改善ブレーキが改善済みまたは未改善であることを見分ける方法
【改善前の写真】



【改善後の写真】



2. プランジャーstroークの測定方法

2.1 プランジャー余裕stroーク測定手順

- ①ブレーキ制動状態でコイルボックスのプッシュロッド先端部分を指先で押し込んでください。
- ②プッシュロッドと調整ボルト間のすき間寸法:Lをすき間ゲージ等で測定してください。
- ③すき間:Lが1mm以下となった場合、調整ボルトにてブレーキstroークを再調整し、余裕stroークを確保してください。

(stroーク調整方法が分からない場合は、無理な調整はせずに、別途お問合せください。)

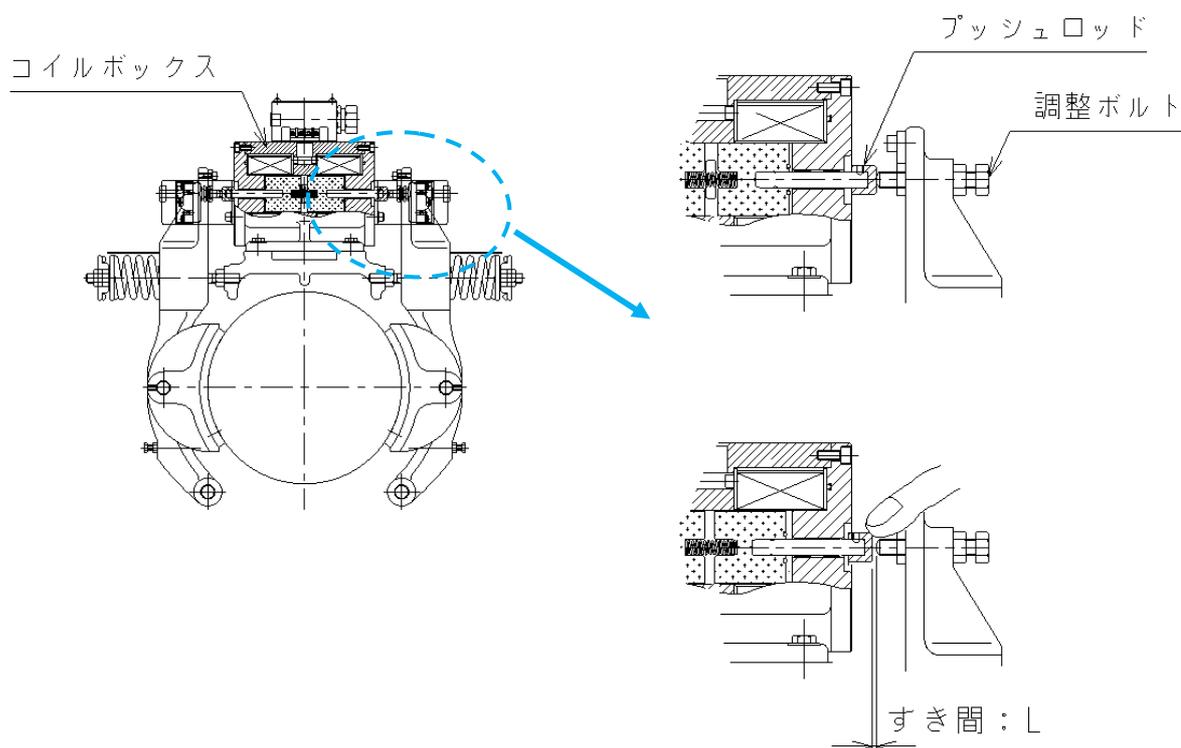


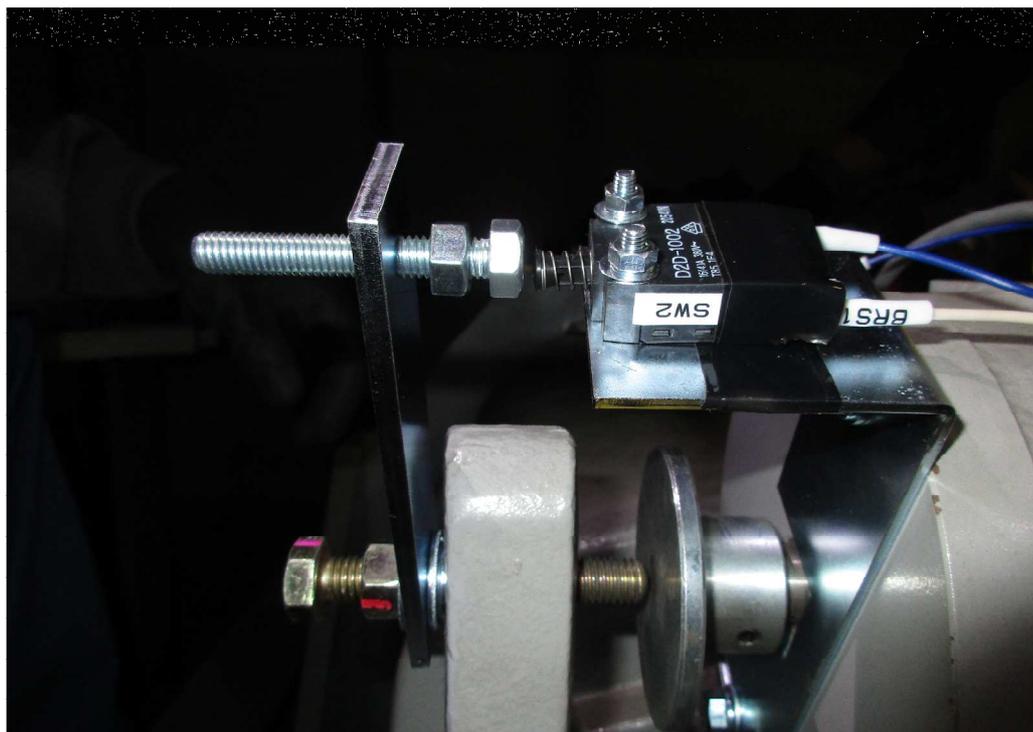
図2 プランジャー余裕stroーク測定

3. 要改善ブレーキの改善処置の内容

プランジャー余裕ストロークが 1mm 以下になる前に作動する「ストロークエンド検出スイッチ」を設置します。

ストロークエンド検出スイッチにてブレーキ余裕ストロークを監視することで、経年によるブレーキパッドの磨耗により、ストロークエンドに陥り、エレベーターが保持できない事故を未然に防止します。

【設置例】



巻上機型式により取付け方法に若干の違いがあります。

巻上機型式毎の具体的なストロークエンド検出スイッチの設置に関しましては、『2. 要改善ブレーキが使用されている旨を判別するための情報』をご確認の上、お問合せください。

※上記、改善処置内容は、既に弊社にて国土交通省へ届出及び審査が行われておりますので、弊社にて設置のエレベーターにのみ有効です。

4. 本件についての外部からの問合せ窓口、連絡先

守谷輸送機工業株式会社

本社 システムサービス部

TEL: 045(785)3811

E-Mail: hoshu@moriya-elevator.co.jp